



タイトル	中国人の世界乗っ取り計画
監修	河添 恵子 (かわぞえ けいこ)
出版社	産経新聞出版
発売日	2010年4月16日
ページ数	246 ページ

著者は、ノンフィクション作家である。もう、5年も前に出版された本であるが、その内容は今でもほとんど変える必要はないくらいだ。「中国を貧乏のままに残しておくのは世界のためにならない」と鄧小平元国家主席は語った。「中国から難民が大量にやって来て欲しくないなら、中国に投資しろということだった。あれから 20 余年、中国は経済大国へのし上がった。

ところが、人民は貧困であれバブル成金の富裕層であれ所詮、「国外脱出願望」である。超格差社会になった今、様々な手段で世界に移民し、「寄生」する中国人が激増している。

まず、<sup>しよ</sup>初<sup>びな</sup>っ端から、『「中国人」が世界に輸出された結果がこれだ!』にまず驚く。中国系移民が世界中で引き起こしているトンデモ事態である。

- ・あらゆる手段で他国に寄生する
- ・キャッシュで不動産を買い漁る
- ・「ウソでも百回」途上国洗脳作戦
- ・IMF も中国に買われる
- ・地域も産業も乗っ取られたイタリア
- ・パリが頭を抱える中国系自治区
- ・カネで買われたアフリカ大陸
- ・殺戮・拉致・環境破壊は中国が元凶
- ・オーストラリアはホワイト・チャイナ
- ・いずれ米大統領は中国系から

以上を見るだけで、かの国の人民は何でもありであることが分る。

まず、目次から見てみよう。

プロローグ

- 第 1 章 世界に広がる「もう一つの中国」  
カナダはすでに乗っ取られた  
大暴れする中国系ゴロツキ  
なりふり構わぬ“投資”根性  
“浮動産”で住民を蹴散らす
- 第 2 章 中華“金主主義”共和国の攻勢  
あらゆる手段で他国に“寄生”  
子どもは“金（カネ）の卵”  
情報統制は世界規模で拡大中
- 第 3 章 黒い中国共産党 VS 世界  
ウヤムヤにされた毒ギョウザ事件  
「毒ミルク事件」スピード解決のウラ  
五輪でも“偽装”する国  
『海角七号』が証明「中台は別の民族」
- 第 4 章 騙す・脅す・略奪する“ガン細胞”  
人民元が国際化される恐怖  
底を貸して母屋を取られたイタリア伝統産業  
パリが頭を抱える中国系自治区
- 第 5 章 世界の政治も食い尽くされる  
カネで買われたアフリカ大陸  
オーストラリアはホワイト・チャイナ  
アメリカ政界もすでに

日本のこれからを考える

さて、幾つか紹介しよう。

人民の海外放出は「国策」という。中国は 2001 年 6 月より国際移民機関（IOM : **International Organization for Migration**）のオブザーバー（責任を持たないアドバイザー）を務めている。外交部の関係者はその際に、「中国は移民問題において世界各国や IMO など、関連の国際組織との協力を強化し、正常な移民流動を促進し、世界の長期的な平和と発展のために共同で努力していく」と表明している。

約 14 億人（13.6 億人 2013 年）の膨大な人口を抱え、雇用もままならない中、とうとう人民の海外放出を国策の一つとして本格化させたわけである。つまり、別の側面から見れば全世界に移民ネットワークを広げる秘策に出たとも考えられる。というのも、中国人

は国外に暮らしていても、貿易したり、投資したり、送金したり、地下銀行を使って中国との関係を継続していくからである。

ところが、本書のいたる所に出てくる近年の欧州事情や地元民と殺し合いにまで発展しているアフリカ事情を知れば知るほど、どこが「正常な移民流動の促進」なのかと呆れると著者は言う。

密入国もしくは観光ビザで入国し、不法滞在による中国脱出組が世界中で増殖を続け、蛮行を働く。地下銀行をフル活用しながら雑草のように生きていく。多くの中国人の生き様とは、「遵法精神」、「自由と民主」、「人権」などを基本的な価値観とする先進国とこれらを共有することはない。


その背景には、金主義（神様よりカネ様）という価値観、何より今日に至るまで、中国が「人治国家」であり「法治国家」ではなかったことがある。その社会風土ゆえに、人民は DNA レベルで「遵法精神」を持っていない。それを端的に表す中国社会の掟が「上有政策、我有対策（国に政策があるなら、私には対策がある）であり、権力者が変わろうが、改革開放政策へ国家体制が移行しようが、今日までイタチごっこが続いている。しかも世界を舞台に「ごっこ」を展開しているのである。

中国から「ゴロツキ」が世界各地へ大量放出されている。この未曾有の出来事に一体、誰が、どんな方法でストップをかけるのだろうか？

ウヤムヤにされた毒ギョーザ事件。2008年1月末に起きた毒餃子事件は、北京五輪後の9月に、「ギョーザ生産ラインで働いていた従業員のうち9人について、殺虫剤混入に関した疑いが濃厚と判断している」といった中国側の発表や、翌2009年に入り「犯人はすでに逮捕された」といった不確かなニュースも一部から出ている。

ただ万が一、犯人逮捕が大々的に発表されることがあっても、中国政府や最高責任者の土下座会見は永遠にあり得ない。ましてや健康被害を受けた日本人に対して、直接に謝罪し、相応の見舞金を手渡すなどするはずもない。そもそも中国人に「反省」という表現はない。辞書には載っているが、彼らの感性にないから「使わない」のだ。

とりわけ、日本人に対して非を認め、謝罪することは面子が許さないという。悔しいけれども、これが「傲慢」で「不誠実」で「無責任」な中国なのである。・・・・・・。

 日本のある家庭での話である。昨日カミサンにパンツを買ってきてもらった。「洗う？」と聞くので「いや、いいよ。買ったての下着を洗うのか？」と聞くと、「洗うわよ。ほら、これメイドインチャイナよ、縫製工が何十人も触っているし、手も洗っていないから毒パンツよ。お店でもそのまま吊るしているから、何人も触っているでしょう。直に肌に着るものだから下着は洗うわ」。なるほど、毒パンツかと洗うことにした。

評者は犬を飼っているが、ドッグフードは全部メイドインチャイナであったが、2年前から高くてもいいからとメイドインジャパンに切り替えた。犬の健康どころか命にも関わってくる。命あつての物だねで

ある。

衣食住はすべからくチャイナフリーにしたい。ついでに、地球もチャイナフリーで行きたいものだ。

中国系は「迷惑」の垂れ流し。公営プールのシャワールームで異変が起きている。原因は中国人の入浴だという。禁止事項にも関わらず、石鹸、シャンプー&リンス、歯磨きセットを持参し、素っ裸で体をゴシゴシ洗い、歯をガシガシ磨くため、通常のシャワー利用者は待たされ、大混雑になるという。

リッチモンドやバンクーバーで美容院を経営する人によれば、「中国系移民が増えて売り上げ上々」と前置きした上で、「ベンツに乗り込むリッチ層でも中国系はディスカウントに敏感。『自分の思い通りの髪型に仕上がっていない』とクレームをつけて、暗に料金を踏み倒そうとするパターンも目立つという。

お金持ちは意外にケチだったりするが、中国系はカネを払わないことにかけては恥も外聞もないという。またここ数年、偽造紙幣や偽造カードで支払われる事件が多発し、その美容院も被害に遭ったことから偽札鑑定機をいれたという。

トイレ問題も浮上。あるビルのトイレに貼られたポスターは、便器の上に靴のまましゃがんで用を足しているイラストと、その上に大きなバツ印。

「中国人がトイレを使うと、便座に靴跡があるわ、流さないわで異様に汚い。おまけに手も洗わないから握手もねえ・・・・・・」と現地在住の日本人。



いま政府が推進・検討している外国人労働者受け入れ拡大策や移民政策について、その問題点や是非について国からの説明は一切ない。

移民を受け入れれば、移民を送り出す国のパワーに依存することになる。在住期間を切るからいいという意見もあるが、どんなに期限を設けても必ず定住する。そして、移民も年をとれば介護の問題も生ずる。

安倍政権は素晴らしい政権だが、だからこその手の問題でつまずいて欲しくない。外国人の技能制度では、今まで認められていなかった再入国を認め、期間も延長するという。業種も建設業だけと言っていたが、なし崩しに造船業も含めてしまった。

そもそも発展途上国への国際協力だったのに、中国人の単純労働者の受け入れに成り下がっている。現在、ほとんどすべての中国人は反日教育を受けている。建設業も造船業も、我々の安全保障を担う産業だ。そういう重要なところに外国人、特に反日にどっぷりつかった中国人に依存して良いのだろうか。

国民的な議論もなく、なし崩し的に受け入れるのは問題である。第一、日本にも労働力として活躍できる人材は沢山いる。目前の労働力不足という問題だけで単純に考えていいテーマではない。

今のままの低い出生率で推移すれば、毎年 20 万人（政府は中国人だけではないと言うが）の移民を受け入れていくと 100 年後には 3 人に 1 人は移民（すなわち中国人）になるという。政府はそういう現実を考えたことがあるのだろうか。

当該国家の民度（人民の生活や文化の程度）に日本人は敏感である。移民は受け入れるにしても、「反日路線」を止めない国からの移民は国を滅ぼす元である。

来日外国人犯罪は平成 25 年（2013 年）になって、検挙人数・件数とも増加している。人員としては中国が 40.9%を占め、ベトナム（11.3%）、韓国（9.5%）と続くという。

今現在でも、在日中国人の犯罪に日本の警察は対応できていない。移民流入によって日本が日本でなくなる日も間近いかも知れない。

中国が世界に及ぼす迷惑は、「中国政府」と「中国人」の双方である。

中国政府は国際法に違犯する「領土侵略や領土主権の主張」、「軍事拡張による東南アジア海域の武力威嚇」、「海洋汚染」、「空気汚染」などを平気で犯して憚らない。

中国人は、中国に住みたがらない。「空気汚染」、「水質汚染」、「食物汚染」等で害毒を垂れ流しにしているからである。中国人は世界各国にゲッターを作り、諸国の「環境」や「社会道徳」をも汚染する、悪の輸出国である。つまり、中国は「有害物質」のみならず、「有害人物」、「有害風習」を輸出する国である。



2010 年 2 月のバンクーバー五輪開催が決まった。五輪を見据え、サービス業従事者を始め労働者が圧倒的に不足しているとの問題を抱え、これまでの国単位から州単位での移民受け入れに変わった。一方中国政府は「走出去（人民も資本も企業も海外へ出よう）」政策が打ち出された胡錦濤政権下の中国では、人民が「渡りに船」とばかりにあの手この手でカナダへ雪崩れ込んだ。つまり、中国富裕層の関心事は「五輪ではなく移民」だったわけである。日本も要注意である。

富裕層が先進国へ大挙して移住する現象は有史以来初めてのことはないだろうか。移民先の歴史も知らず、民族も文化も宗教もすべて異なる新天地で、彼らは良質な教育・仕事・医療・福祉・環境（すなわち、きれいな空気や水）・食料などを求め、永住権や市民権の取得に燃え、資産運用に血眼となり、不動産を買いあさっている。郷に入れば郷に従う感覚はゼロに等しく、祖国から逃げたはずなのに、中国が金満な大国になったことで、ご都合主義に擦り寄り、とことん利用し合う中華民族の流儀にはもっと呆れる。

あと 20 年もすれば日本は消滅するだろうと言ったのは、中国の李鵬元首相だった。どちらが先に消滅するだろうか？結果が楽しみである。

話し合いや条約・協定は破るもの・時間稼ぎのツールと考える国相手では意味もない。

長期にわたり、中国は経済では利用し、政治では圧力をかけるという対日政策をとってきた。「日中友好」の掛け声など、豊かな日本から「資本」と「技術」と「ノウハウ」をとことん盗み取るのが目的であったことを我々は冷静に総括しなければならない。

2015. 3. 21